

―特集―

死を前にした人に 私たちができること

現場の語りと事例から考える

超高齢多死時代では、住み慣れた自宅で、人生の最終段階を迎えた人と誠実に関わることが求められます。では、まもなくお迎えが来る人に、どのように関わるとよいのでしょうか。単なる励ましに通じない看取りの現場にあって、一部のエキスパートだけではなく、関わるすべての人が、「自分がその人に何ができるか」を言葉にできるでしょうか。たとえ無力感を覚えながらも、その場に居続けられるのでしょうか。

本特集では、書籍『死を前にした人にあなたは何かができますか?』（医学書院）で紹介されている「苦しむ人への援助と5つの課題」を活用して、実践者たちの事例をご紹介します。個人で、ステーション全体で、多職種で、看取りに対する苦手意識に向き合っていきましょう。